

新建築

SHINKENCHIKU:2020

1

創刊95周年



裏磐梯のホテル ホテル・アアルト第2期計画

設計 益子アトリエ

施工 八光建設

所在地 福島県摩耶郡北塩原村

HOTEL IN URABANDAI / 2ND STAGE

architects: MASKO ATERIER

西側俯瞰。2009年に築40年の保養施設を13室の民間ホテル（裏磐梯のホテル、本誌0912）に改修したプロジェクトの第2期計画。敷地の丘地部分を中心に改修した第1期計画に対し、敷地の湖沼方向に4室の客室棟とラウンジ棟を増築した。

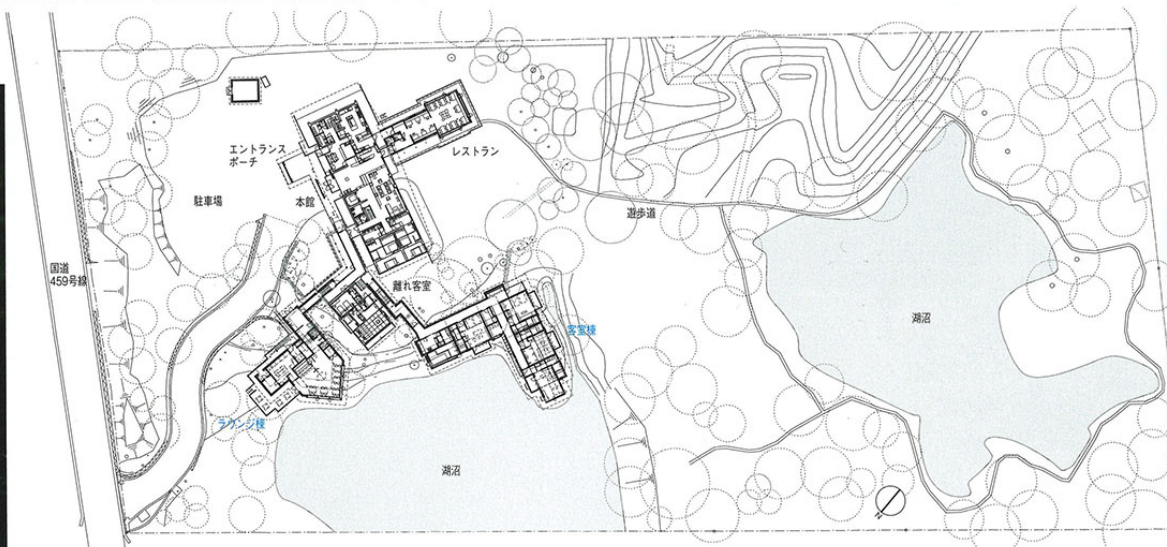




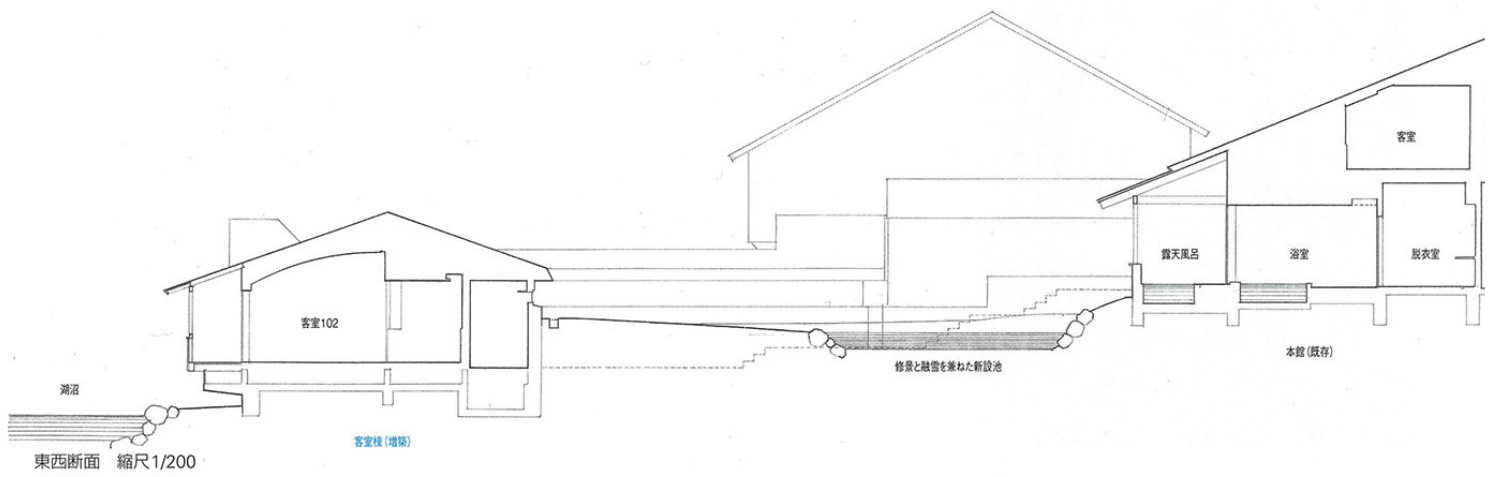
北側よりラウンジ棟越しに客室棟を見る。敷地造成を一切せずに、既存施設および環境とを繋ぐように、2棟が増築された。



客室棟越しに湖沼を介してラウンジ棟を見る。



配置 縮尺 1/1,500





ラウンジは、食堂専用の本館のレストランに対して、会合や飲食等、多目的にも使えるスペースとして設けられた。屋根架構を中央の柱に寄せる寄棟の形式としている。

ラウンジ棟エントランスホールを見る。ラウンジとのレベル差は750mm。



時の持続の中で

福島県・磐梯山の中腹に建つホテルの第2期計画である。最初の計画（本誌0912）が完成して早10年の時が経つ。

ホテルの活動開始後の2年目に東日本大震災が起き、施設に大きな損傷はなかったもののこの一帯も福島原発事故からの風評を受けて、しばらくは人の気配の乏しい日々が続いた。でも幸いに多くの再訪の人たちにも支えられ、評判も少しずつ上向いて今回の第2期計画の時を迎えることができた。第1期の計画は、保養施設としてあった既存の本体をもとにその全体のシルエットや骨格を引き継ぎながら、敷地一帯の環境と居場所との応答のかたちを再度読み直して増築部を加え、既にある骨組みを縫うように、そこに新たなホテル空間を拓いたものである。既存建物に刻まれた当初の構成意図とそこに重ねる新たな計画視野の交錯。新築の取り組みとは異なる経験の中で、持続する時間を受け継ぐ建築の動きに思いが向いた。

環境を読み解き、人の経験に結び

この第1期後のしばらくの観察を通して、今回の取り組みも個々の場の設えを工夫する以前に、一帯

の環境をここを訪れる人たちの経験にいかにか新鮮に結ぶかを主眼に置いた。空間による視界の枠取りや開き閉じを通して一帯に散在する風景の中から隠れた特色を拾い出し、そこにもうひとつの視界や風景の脈絡を紡ぎ出すこと。それが建築の果たせる役割であろうかと考えた。

最初の本館部は丘地側に建つ。その上階の客室からは遠く吾妻連峰の山容や磐梯山の頂が望まれる。これに対して今回の増築部は、敷地内の隠れて見え難かった湖沼に沿う場所に配置し、その新しい建屋が旧館からの視界を妨げることのないよう低地側に低く沈ませる構成を取った。もとの自然地形に沿うこの配置を通して、もうひとつの特色ある風景との結びが得られたように思う。

こうした環境との関わりを考える上で、内部の設えの大切さはいまでもない。内に安憩の居場所がなければ、一帯の風景を感受する心は開かれない。その点で客室ほかの内部デザインを、それぞれの場所ごとの外部風景との関わりを見据えながら居場所の重心を探り、強く主張することのない自然素材と白を基調として、落ち着きある空気感が得られるように心がけた。

（益子義弘）

ラウンジの窓辺を見る。腰壁高さ840mm、開口部高さ1,260mm。
腰壁部分にパネルヒーターを設け、ガラリおよび開口部脇のスリット
から暖気を送る。開口部は幅1,820mmのFIX窓と600mmの換気窓。

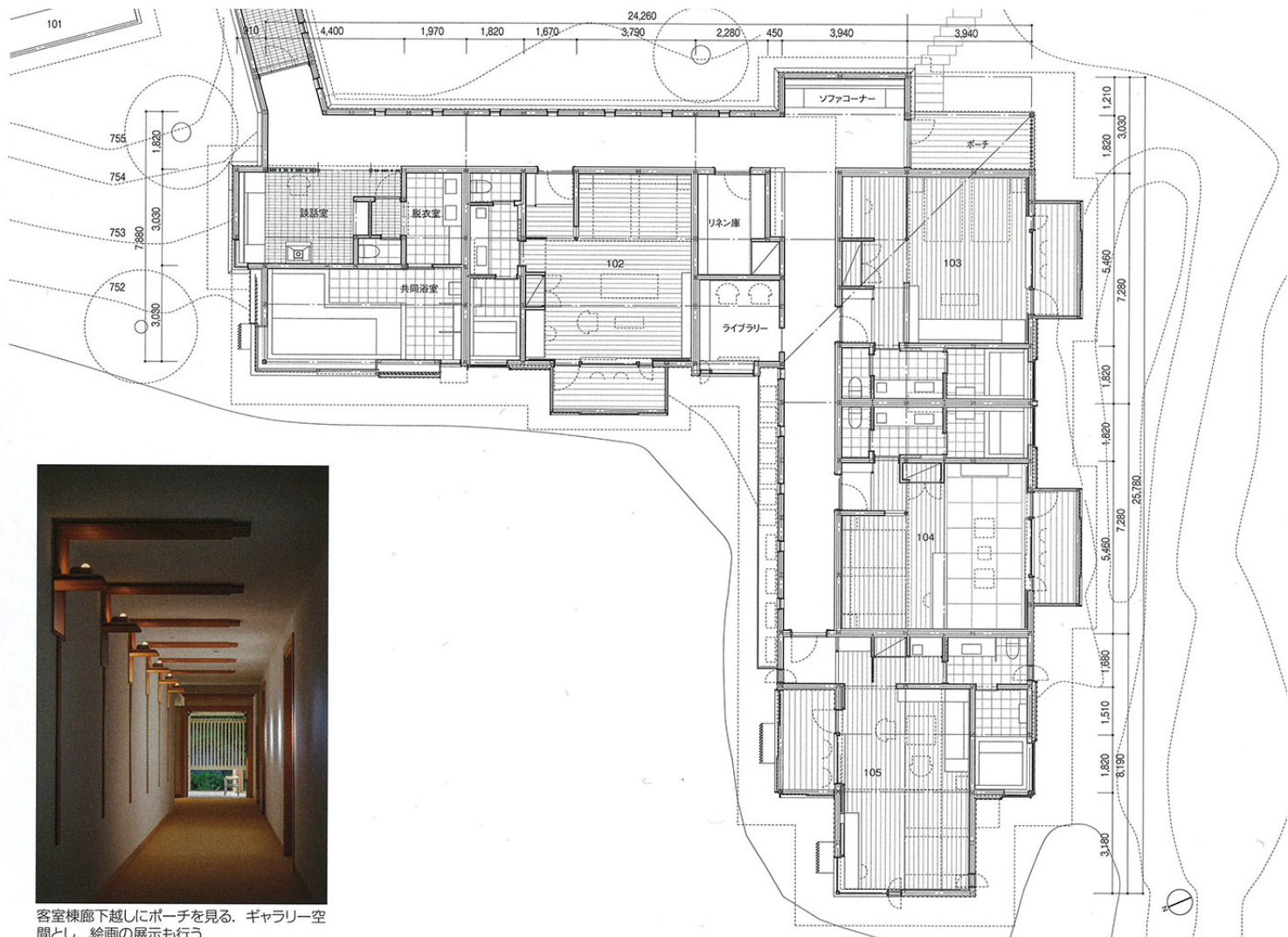


客室棟ポーチより階段を上った正面にレストラン棟、北側（写真左）に本館。
本館の建つ部分との高低差は2m。

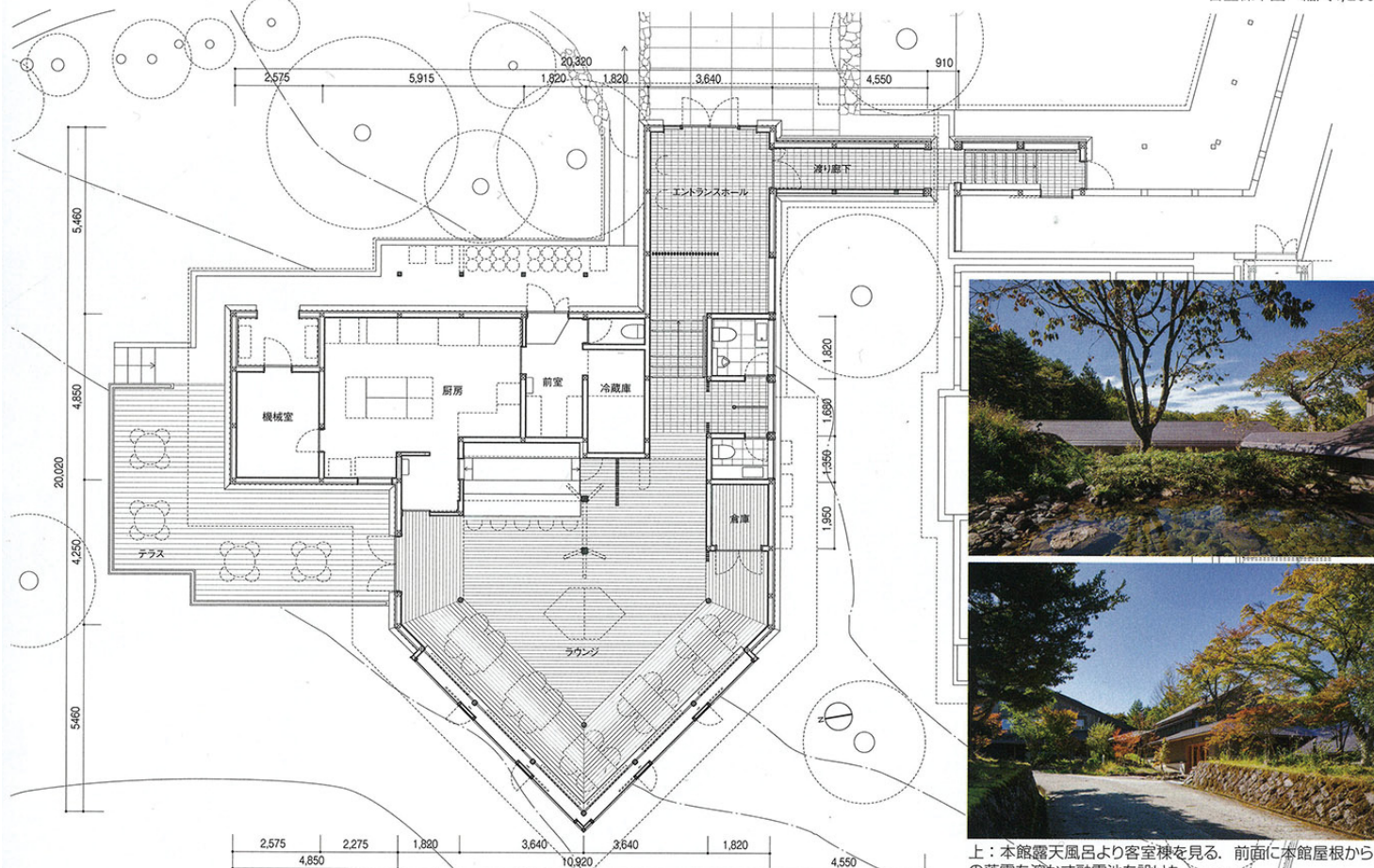


客室棟の共同浴室より湖沼を見る。





客室棟廊下越しにポーチを見る。ギャラリー空間とし、絵画の展示も行う。



上：本館露天風呂より客室棟を見る。前面に本館屋根からの落雪を溶かす融雪池を設けた。
下：ホテルへのアプローチから直接ラウンジ棟(右)にアクセスする。



客室105の北側コーナー窓より湖沼を見る。眺望に向けて両面をクリアなFIX窓とし、遮光用引戸で光と視界の操作を行う。

客室103のテラス方向を見る。テラスの先には小川が流れ、森が広がる。天井をカーブさせ、小川を反射した光が天井を広く照らす。天井高は2,100～3,000mm。



切妻屋根の形状が現れる客室105。天井高は2,250～3,100mmで、ベッド上部は2,100mmに低く抑えている。北側の湖沼に面してテラス、開口部を設置。





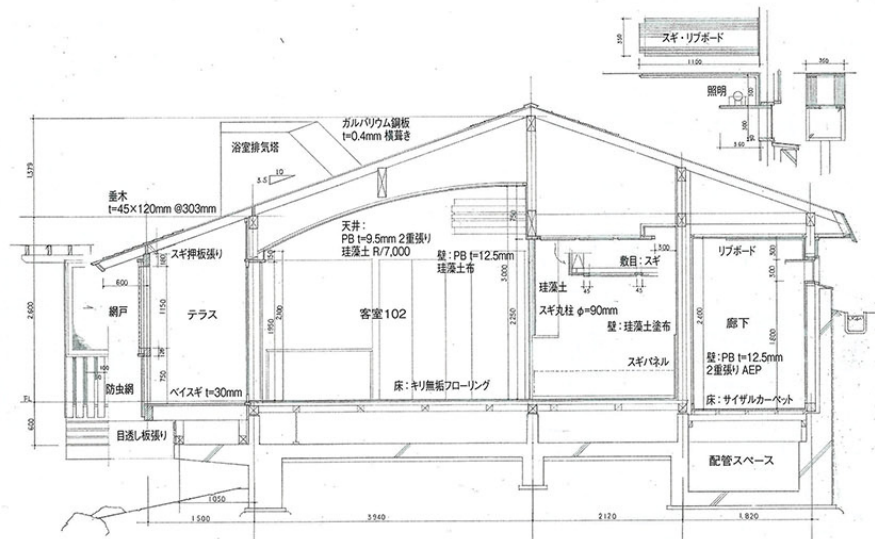
上：客室103の森に面する浴室。各室に温泉を持つ。
下：客室103テラス。テラスには網戸を設置。
2点窓回りの詳細は121頁上。



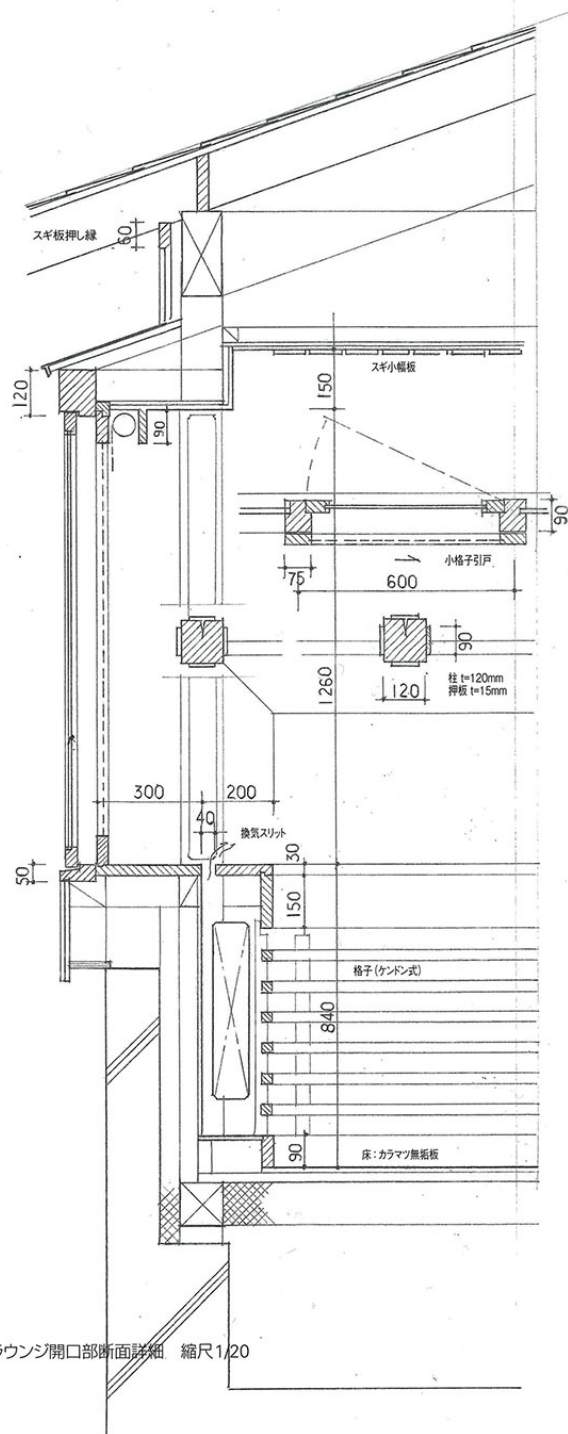
102号室の入口より見る。下足場となる入口脇にはベンチを設置。



左：ラウンジ棟の照明はオリジナルデザインで、テーブルのペンダントは窓外の眺望を損なわないように薄いシルエット形状にした。中：廊下に設けた照明（詳細は本頁上）。右：開口部の納まり（詳細は121頁上）。遮光戸を開いた時に戸が重なるようにした欠き込み。

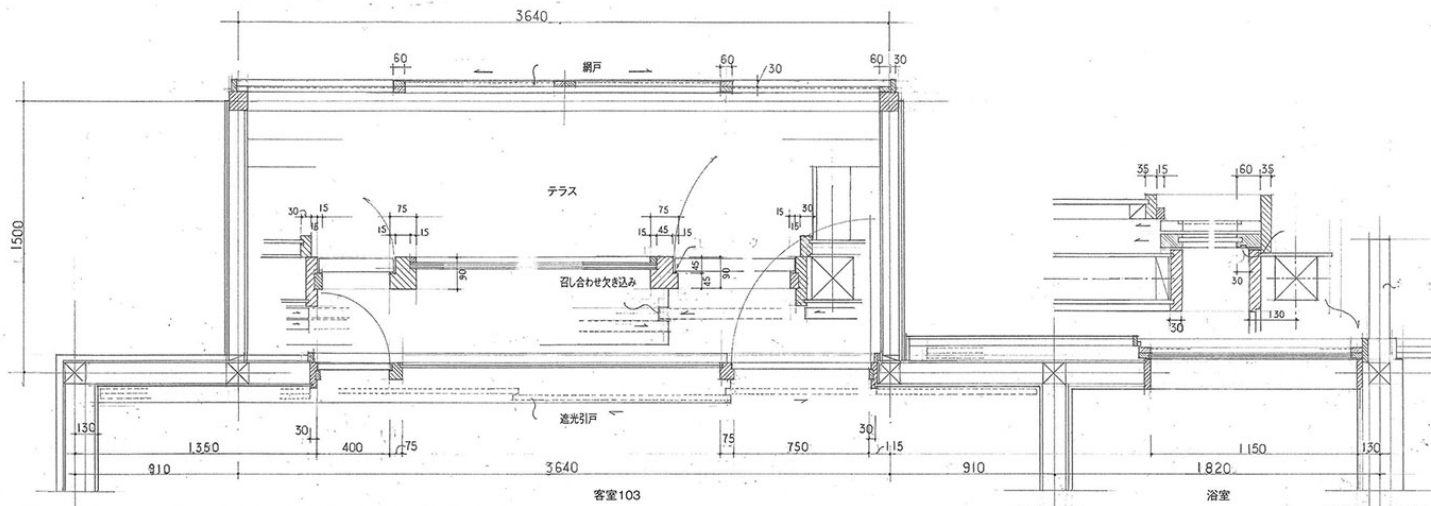


客室103断面 縮尺1/100
リブボード・照明詳細（上） 縮尺1/50

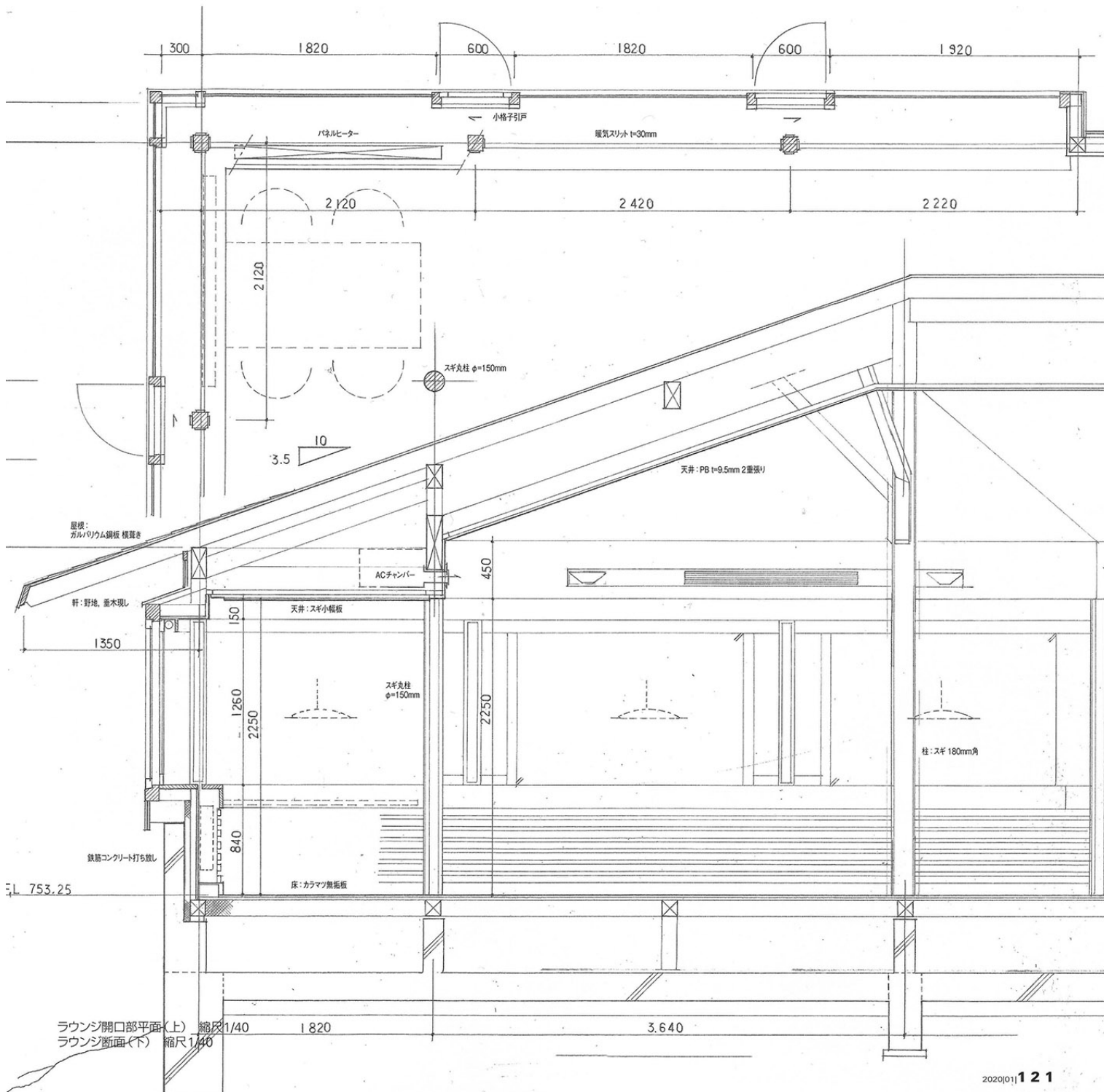


ラウンジ開口部断面詳細 縮尺1/20

設計 建築 益子アトリエ
ランドスケープ 山崎誠子
構造 町田設計一級建築士事務所
設備 エデインソ（電気）
遠藤建築設備設計事務所（機械）
施工 八光建設
敷地面積 22,491m²
建築面積 586.85m²
延床面積 551.99m²
階数 地上1階
構造 木造
工期 2018年9月～2019年6月
撮影 新建築社写真部
（データシート215頁）



客室103開口部平面詳細 縮尺1/40 (中央に建具回りの平面詳細 縮尺1/20)



ラウンジ開口部平面(上) 縮尺1/40
ラウンジ断面(下) 縮尺1/40